



(11/30~12/31まで)

気象庁発表 全国1か月予報(平成29年11月23日発表)

- 寒気の影響で、北日本では、期間の前半は気温がかなり低い所があるでしょう。2週目になると、東・西日本でも気温が低くなる見込みです。
- 北日本では、向こう1か月の気温は低い見込みです。向こう1か月の降雪量は、北日本日本海側で多く、東日本日本海側で平年並か多い見込みです。
- 沖縄・奄美では、期間のはじめは、暖かい空気に覆われて、気温がかなり高くなる所があるでしょう。



世界の気象観測の 精度向上のための会合開催

世界気象機関(WMO)現業用気象測器の計量に関する専門家チーム(ET-OM)の会合が平成29年11月27日から11月30日にかけて気象庁本庁及び気象測器検定試験センターにおいて開催されました。

天 気予報や気候変動の監視を精度良く行うためには、高品質で均質な気象観測を継続的に行う必要があります。日本のみならず途上国を含めた世界各国において気象測器(温度計・湿度計・気圧計など)の適切な校正(気象測器の精度を標準となる測器と比べて正すこと)及び保守を行い、精度を維持した気象測器を用いて、気象観測を行うことが重要です。

このため、WMOでは、気象測器の精度を高い水準で維持し、またそれを担う専門家を育成するために、世界に計15の地区測器センター(RIC:Regional Instrument Centre)が指定されています。日本においては、1998年から気象庁の気象測器検定試験センターがRICとしての国際協力活動を行っています。

本会合においては、気象庁の方々を含め世界11カ国から12名が集まり、RICを中核とした世界の気象観測の精度向上のため、各国の取り組みや今後のRIC等の活動方針について議論されました。

この会合中、気象庁本庁会議室において、弊社は、Ptアスマンなどの気象測器の展示を行いました。特にPtアスマンにつきましては諸外国の専門家から大変ご好評いただきました。

